名古屋ごみレポート

‘24 版

令和７年２月

―名古屋市環境局―

目　次

はじめに　・・・

は じ め に

平成 11 年２月、本市はごみ処理量が右肩上がりに増加する中、渡り鳥の重要な飛来地である藤前干潟の埋立計画を中止し、「ごみ非常事態宣言」を発表しました。地域役員の方々の献身的なご尽力も賜りながら、市民・事業者との協働による徹底した分別・リサイクルに取り組んだ結果、大幅なごみ減量を達成することができました。

その後も、ごみ処理量は大きなリバウンドもなく緩やかに減少し、「ごみ非常事態」を脱し、名古屋に分別文化が根付いたと言われるまでになりました。

一方で、「ごみ非常事態宣言」から25年が経過し、少子化・高齢化の進行や価値観・コミュニティの多様化、デジタル化の進展など社会が大きく変化しています。加えて、プラスチックの資源循環や食品ロスの削減が地球規模の課題になるなど、ごみ処理・資源化を取り巻く状況も刻々と変化しています。

また、持続可能な開発目標（SDGs）の達成や脱炭素社会の実現、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行に向けた動きが加速しており、本市においても一層の取り組みが求められています。

こうした状況を踏まえ、令和６年３月、市域内の一般廃棄物の処理について定める「第６次一般廃棄物処理基本計画」を策定し、「パートナーシップで支え合う持続可能な循環型都市なごやをめざします」という基本理念を掲げました。社会の変化に的確に対応しながら、「プラスチックの資源循環」と「食品ロスの削減」に重点を置いた施策を推し進めるとともに、ごみ減量だけではなく資源を効率よく循環させることで、将来世代にわたって安心して住み続けられる持続可能な循環型都市の実現を目指して取り組みを進めています。

この「名古屋ごみレポート」は、「一般廃棄物処理基本計画」に基づき各年度の成果をご報告するとともに、今後の循環型社会の実現に向けた取り組みについてとりまとめています。

本書が、本市のごみ・環境問題に対する皆さまのご理解とご関心を深めるうえで少しでも役立ち、「循環型都市なごや」を実現していく一助となれば幸いです。

名古屋市環境局

▶持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）

SDGs とは 2015 年９月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成されています。

目標 12.「つくる責任 つかう責任」において、廃棄物の削減や再利用などを定めており、持続可能な社会の実現のためにごみ削減も深く関わっています。